

【初年度実証成果】(株)きてら (和歌山県田辺市)

実証課題名：中山間地における果樹（かんきつ・梅）生産のスマート化プロジェクト

経営概要：30ha（かんきつ20ha、梅10ha）

15名（社員5名、パートアルバイト10名）

導入技術

①Loraを使用した気象観測装置のデータ収集とWeb利用②リモコン式草刈機③投下資材や作業体系を統一したスマホ農作業日誌



①ルーラル・ウェザー・ネットワーク



②リモコン式草刈機



③農作業日誌アプリ

目標

- データを活かした栽培管理や適期防除で栽培歴防除指針より防除経費を5%削減。
- オンライン農作業日誌アプリでの情報共有や伝達による作業効果の向上と無駄の削減
- 本格的なリモコン式草刈機で草刈機作業の労働時間を1/3まで省力化

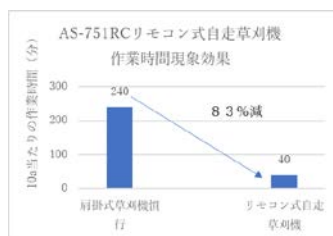
1 初年度の実証成果の概要

- リモコン式自走草刈機（AS-751RC）は平坦な2年生及び3年生の梅苗木園地での実証では、10aあたり40分での作業を実証した。（肩掛式草刈機では10aあたり240分）
- ルーラルウェザーネットワーク観測装置20基を10月末に各園地に設置した。2月末でデータ送信が正常なものは17基、残り3基は3月末までに調整作業を終了する。
- アグリオン農作業日誌の初期設定作業や記帳説明会等を経て令和3年1月から20農家が記帳を開始した。

2 導入技術の効果

リモコン式自走草刈機

梅の平坦な園地では、真夏での草刈作業時間を肩掛式草刈機より83%効率化。



ルーラルウェザーネットワーク

園地の凍害リスクの見える化

凍害が心配された1月9日未明には標高の低い園地がより冷え込んだ。



アグリオン農作業日誌

30代～70代の20人の農家が令和3年1月より記帳を開始。「現場での入力」は思ったより簡単。これなら続けられそう」との声が多い。



省力化農機のレンタル事業

スマート農業の実証事業を契機に、コンソメンバー(株)秋津野ゆいが所有するリモコン式自走草刈機や自走式大型シュレッダー等の省力化農機のレンタル事業が中山間直接支払事業との連携で始まり、スマート農業事業以外にも省力化の動きが活発化した。



3 今後の課題・展望

- 雨量積算等に影響される梅の黒星病、柑橘の黒点病に絞って、微気象データと防除回数の相関を調べ、経費削減を実証する。
- 梅の成木園やかまぼこ型園地での実証を進め、作業時間短縮のための梅園地形状の提案につなげる。
- ベテランから若手への作業体系の継承に繋げるために解析結果を農家間で共有する仕組みづくりを構築する。

問い合わせ先

農業法人株式会社秋津野 (Email : info@agarten.jp <https://smart.agarten.jp>)